

第 3 回宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画策定審議会 議事録	
日 時	令和 6 年 11 月 21 日（木）午前 9 時 30 分から
場 所	宗像市役所西館 2 階 204 会議室
委 員	池添昌幸 委員（会長）、佐藤太郎 委員、小部彰一郎 委員、 松本奈津美 委員、目原凪斗 委員
出席者	宗像市アセットマネジメント推進課 中山課長 角脇係長（アセットマネジメント推進係） 小田主任主事（アセットマネジメント推進係）
内 容	1 開会 2 議事 「宗像市公共施設アセットマネジメント推進計画」 ・ 前回審議会を受けての修正内容 ・ 第 3 章 公共施設用途分類別方針及びインフラ分野別方針 ・ 第 4 章 公共施設・公共インフラの更新・改修計画 3 その他連絡事項 4 閉会 （１）開会 — 会長より、委員 5 名の出席により、本審議会開催の定足数に達している旨の報告 — （２）議事 — 資料 1 について、前回審議会での意見を踏まえ、事務局から説明 — 松本委員：23 ページのグラフについて、赤色で示されている短期改修費用は 2025 年度から 2029 年度までの 5 年間しか発生しないのか。 事務局：短期改修費用は 2030 年度以降も発生するが、すでに黄色で示されている長期改修費用を短期改修費用として優先順位をつけて再分配するので、更新・改修費用の総額は変わらない。 小部委員：23 ページの短期改修費用についての説明があったが、本計画を目にした市民にも同程度の理解ができるよう、計画内の文章でも説明の記

載があった方がよい。より混乱を招く場合は、グラフにおいて赤色で別に示さずに「改修費用」として黄色でまとめて示す方法もある。

池添会長：第4章に短期改修費用についての記載があるので、そこの整合も図る必要がある。

事務局：いただいた意見を参考に他の章との兼ね合いも含めて改めて検討する。

小部委員：コミュニティ・センターや学校について、施設別方針の評価を「現状維持」から「複合化」や「適正化」に修正したとのことだが、これらの施設のほとんどは「計画期間内での更新は行わない」となっているため、更新費用の試算としては「現状維持」と同等に試算しているのか。

事務局：55ページに記載の床面積縮減率をもとに係数を設定して試算しており、今回、評価を修正した施設については修正後の評価で試算している。ただし、更新費用の試算においては、計画期間内に更新がなければ施設別方針の評価が変わることによって金額が変動することはない。また、施設の保有総量についても評価に基づく係数を用いており、25ページに記載の計画期間外を含めた保有総量の20%圧縮においては、評価を修正することで、より目標に近づいたと言える。

池添会長：各コミュニティ・センターの更新方針では、「コミュニティ領域内の公共施設との複合化を検討する」となっているが、「学校」という単語を使っていないのは意図的か。

事務局：「コミュニティ領域内の公共施設」に学校も含まれている。

池添会長：今回の見直しでコミュニティ・センターの評価が「現状維持」から「複合化」に変わったことで、コミュニティ・センターが現在の場所から別の場所に移るのではないかという印象を受ける可能性がある。

事務局：コミュニティ・センターだけに限らず、公共施設の適正規模を目指すうえで、検討の大きな方向性として「複合化」を打ち出して、地域の方々を含めた関係各所と議論する際の意味表示の意味も込めている。

目原委員：55ページの縮減率について、「複合化」で20%縮減となっているのはなぜか。

事務局：面積の70%をテナントとして貸している（レントブル比70%）施設と仮定して、残り30%は廊下やトイレといった共用部分にあたる。この施設を別の施設と複合化したときに減る面積を縮減率として設定している。例えば、これら2つの施設を複合化したときに、トイレが4つあった

	ものを3つするなど、共用部分を少しずつ減らしていくと約80%の面積になると想定している。 目原委員：学童保育所が複合化して別の場所に移るということになると大きな混乱を招きかねない。学童保育所の複合化について、具体的な計画が決まり次第、早急に保護者への周知が必要と考える。 事務局：学童保育所については、現在の学童保育所が配置されている学校の校舎との複合化を想定して更新方針に複合化を検討する旨記載している。ただし、今後、児童数の減少により、他の学校の敷地内にある学童保育所同士が集約されるようなことがあれば、当然、保護者への十分な周知が必要と考える。 （４）その他連絡事項 — 次回審議会開催日について案内 — （５）閉会
--	---